

砂名の ベトナムに乾杯

第36回 時には「引く」ことの大切さを学ぶ

大学に入ってまもなく、私は同じ国文科の先輩から、将棋や囲碁、麻雀を教えてもらいました。新しく覚えたばかりの勝負の世界は私を魅了し、多くのことを学ばせていただきました。

将棋は囲碁と違って、一手差し違えたり無駄な手を打つと、最後まで響いて取り返しがつかないのだと教わりました。ですので囲碁より将棋の方が、同じ初段でも取るのが難しいそうです。そろそろ初段を取って見たら？と言われていた頃のことでした。学生街の Snackbar で飲んでいる時、周りからも「強い」と一目置かれていた有段者の方が、一度お手合わせをと将棋盤を持って来られました。

「君なら『飛車角落ち』で充分だな、さらに「金」と「銀」も落とされたのです。

「そこまでソイツ、弱くないよ」と先輩が止めるのも聞かず、「桂馬」と「香車」と「歩」だけで勝負されたのでした。そして、まだ序盤で「飛車」の頭に「歩」を突いて来られました。私は速攻で飛車を元の位置まで下げました。深く考えず、直感的に危険を感じたのです。その瞬間、「参りました、投了します」と相手の方。「???」でしたが、とにかく私も勝ったのです。相手は私とその「歩」を即座に「飛車」で取ると踏んだようです。後ろにはその方の「桂馬」が控えていました。大方の初心者は「引く」ことを嫌って前進し、抜き差しならぬ状況に追い込まれるそうです。そんな他愛もない話はさておき。



それから20年越しの登頂悲願達成に、陛下は「感慨深いものがあります。富士山の高さ、大きさを感じました」。陛下の誕生日2月23日は、静岡県と山梨県では条例で定められている記念日「富士山の日」です。陛下の即位にともない、2020年から祝日となりました。

私は東京でアイキョーインターナショナルコンサルタント株式会社という商社の取締役も務めておりますが、その代表取締役の山口英一氏はその昔、山登りをやっておられ、現在の天皇陛下が皇太子殿下（浩宮徳仁親王）時代に、「お山係」として富士登山に同行されたことがあります（その様子は後にアサヒグラフに特集が組まれています）。

1988年8月。皇太子殿下の初の富士登山、一日目は須走口より登られ、夜は八合目江戸屋（下江戸屋）にご宿泊されたそうです。ところがあいにく翌日は悪天候で、やむなく下山され、初の登頂は見送られたのでした。後に山口英一氏は、こうお話になっておられます。「何度も登頂を経験しているベテランの登山者であれば、無理をすれば登れなくはなかった」。やはり皇太子殿下の身の安全を一番に考えられたのでしょうか？

「いや、それももちろんありますよ。でもね、私は、皇太子殿下には『引く』ことの大切さを知って欲しかったのです」

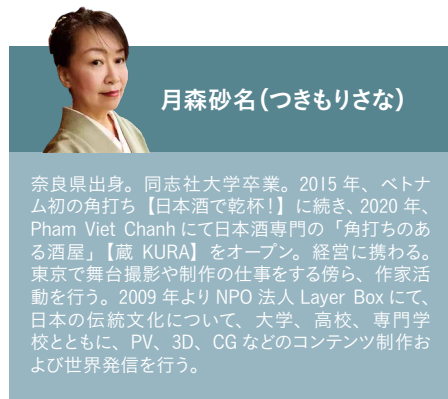
「皇太子殿下は何と仰せになりましたか？」

「即座に『分かりました』と穏やかに答えられました」

時には「引く」ことの大切さを知る。日本国の近代の歴史を振り返ると、何とも奥の深い話ですね。

また、宿泊された「江戸屋」で、皇太子殿下が歓談されているお写真を、当時の美智子妃（現在の皇后陛下）が「（浩宮の）こんな笑顔を初めて見ました、ありがとう」と仰ったというエピソードも感動的でした。

このお話をお聴きしたのはベトナムに来る前だったか、一時帰国の折だったかは定かではないのですが……現在93歳の山口社長の話は、いつも奥深く、心に深く刻まれています。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。